繁滋なる 思いを秘して寮

の

大地に根を張る若芽らは時は過ぎ

熱き契りの友を得ん 意気試され 育まれ 門をくぐりし若人は

遙かなる迪に根を張らん 楡の若葉曜くごとく

> 寮なびやささ 切磋琢磨し歩む毎 思い託され懊悩しつつ

遙かなる迪を継ぎ行かん の燈火燿 くごとく 支える大樹とならん

> 雪野に朝日 耀 くごとく 別るる友に思いを託し かきっかが くら なき くら かきっかが しまし かけがえのない 寶 とならん 此処で学びしひとごとが何時の日か

遙かなる迪に出で行かん

福 岡萌 君 作

加藤

信泰

君

作歌 Ж